

2019年度第8回阿波おどり実行委員会議事録

開催日時 令和元年12月25日（金）午後3時～

開催場所 徳島市中央公民館3階 302会議室

出席者 実行委員会6名（欠席1名） 運営協議会1名 事務局5名 事業体3名

1 開会

2 出席者紹介

3 議題① 2020阿波おどりについて

【松原委員長】

全国に向けて阿波おどりをアピールしていくために来年の阿波おどりがどのような形態になるのかを早期に確定する必要がある。私としては、全国にアピールしていくには本日から来月に開催される実行委員会で事業計画を確定しなければ全国にアピールしていくための限界だと考えているので、迅速な議事進行をお願いしたい。

前回の実行委員会で何点か留保した事項があったので、それらを事務局から報告いただき、各委員の意見を聞いた上で順次決定していきたいと思う。

【事務局】

資料1 2020阿波おどり事業計画の策定に向けてについて説明

【松原委員長】

会議資料については全て事前に配布されており、各委員は事前に検討いただいていることを前提に事務局から説明いただいた。本日の各委員の意見は熟慮の上での意見だということなので伺うこととする。先ほど事務局から説明があった2020阿波おどり事業計画の策定に向けてについて、個別審議事項以外で意見を伺いたいと思う。

（意見なし）

先ほどの事務局の説明内容について、多分に阿波おどりを前向きに行う、東新町おどりロードや座席についての席の割り振りをどうするかといった話である。個別審議事項を除く資料1の内容について、これを事業計画とすることでよいか。

（異議なし）

それでは次に個別審議事項について議論したいと思う。

【事務局】

資料2 市役所前演舞場の廃止及び観光バス乗車場の設置について説明

【松原委員長】

市役所前演舞場の廃止及び観光バス乗車場の設置についての説明をいただいたが、この点については市民からの関心も非常に高い議題であり、各委員もそれぞれの意見を持っていると思うので、順次意見を伺っていきたいと思う。

【藤川副委員長】

この乗車場を取り入れた場合に、各演舞場にどれぐらい観光バスの誘客ができるのか数値的な目標等があるのか伺いたい。

【事務局】

資料2の3ページに現在のバスの台数とチケット販売枚数の比較が記載されている。例えば12日に観光バスが120台程来ており、1部では12,000枚程のチケットが売れている。4演舞場の1公演合計で13,500枚あり、3演舞場になった場合は10,600枚程になる。13日の1部で言うと60台の観光バスが来ており、7,600枚程売れており、まだまだ余力がある状態である。14日以降であればかなりチケット販売率が悪くなっており、観光バスの台数からも30台や19台になっているので、例えばこれが倍になったとしても、まだまだチケット販売には力を入られる余力はあると考えている。具体的に何台という目標があるわけではないが、14日以降も観光バスが60台や70台なり来ていただくことが必要なのではないかと考えている。

【藤川副委員長】

この変更するというのであれば、かなりの数が見込めるという前提でなければ、変更していくというのは難しいのではないかと考える。その辺りの見込みを出していかなければ変更していくのは厳しいのではないか。

また、観光バスを誘致する場合に観光バスの待機所はどの辺りを検討しているのか。

【事務局】

観光バスについて現在は吉野川河川敷と沖洲マリンターミナルの2カ所に停めていただいて、そこからシャトルバスで移動していただいている。吉野川河川敷から体育館前の道は非常に混雑するところであり、市役所前を観光バスの乗車場とした時に吉野川河川敷に観光バスを停めていただいて予定の時間に市役所前に到達するのは難しいのではないかと想定される。なので、市役所の東側か南側に観光バス置き場を作り、そこから市役所前の乗車場まで入って来られれば、スムーズな運行になるだろうと考えている。ただ、観光バスを100台以上仮に停めて置く場所というのが見つかっていないので、今後の課題であると考えている。

【藤川副委員長】

市役所前を廃止してバスの乗車場にするということは、新たに多くの観光客を誘致するというのではなく、現在来られている方をより良く便利に利用してもらうために取り入れるということになるのか。

【事務局】

仮に市役所前演舞場が廃止され3演舞場になったとしても、現在のチケット販売状況は4割から6割程度しかない状態である。団体販売のチケットについて、団体割引の導入や販売スケジュールの前倒し、キャンセル期間を設けるなどして、団体販売に力を入れていき、現在の来ている観光バスよりも多くの集客を高めようとするために利便性を高めようとするものである。

【藤川副委員長】

今まで以上に観光バスを呼ぶというのであれば、停車する場所や運行ルート、乗り降りする時に上手く回せるのかが見えていない。

【松原委員長】

藤川副委員長からは現在の運行ルートは示していただいているが、果たしてこれが円満に行えるかどうか机上の空論であり、このようにできると言われても直ちに了承しにくいという主旨である。こういった意見が出たことを理解してもらいたい。

【小笠委員】

市役所前演舞場の廃止について、これまで色々と努力してきたけれども、なかなか実績が上がらないという現状があるのは十分に認識している。一方で昨年から事業体が運営を行ったが、4日間の内2日間だけであった。事業体が4日間運営を行ったという実績を踏まえて検討していくことも必要だと思う。また今回の事業計画で地域や地元商店街などへの経済波及効果を拡大するということが我々の一番求める効果である。そういった中で、受け皿としての演舞場の数が少なくなるというのは、現実に満杯になっていない、全体を捉えると余力があるということは理解しているが、現状を想定するのではなく、大きなところを見つめながらやっていただきたいと思っている。

前回に会議で収支関係と物理的に可能かどうかという意見を出させていただいたが、収支については2,200万円余りの改善に結びつくということで、これはなかなか捨てがたいと思う。もう一つの物理的に可能かについては副委員長の意見とも重なるが、前回とルート変えて検討しているが、実績や過去のデータもない中で、この内容で良いのではないかという話にはなかなかならない。やはり検証や実績に基づいて方針を決めていくべきだと思う。廃止してバスの乗車場所とすることは確かにメリットはあるが、デメリットの部分があまり見えてこない。大渋滞が起こるかもしれない、あるいは来られた方が何らかの問題を指摘するかもわからない。そういったことが想定される中で廃止してここをバスの乗車場にするのはどうかと思う。もう少し検証に時間が必要なのではないかと考える。線路の向こう側にシャトルバス乗場があるが、ここもスペース的にそんなに大きくはないが、マリンピア方面から来るバスをここで活用するなど、そういったことも検討の余地もあるのではないかと考える。

結論として、来ていただける方を増やすという色々な方策、我々では考えつかないようなこともやっていただいております、それについては感謝をしているが、それに合わせてパイを増やすというような工夫をしていただき、その結果として今後見直しが必要な時は再

度検討をすべきではないかと考える。従って時期としては早すぎるのではないかと考えている。

【蔭山委員】

前回の実行委員会の時にこれまで市役所前演舞場に人を多く誘導するために色々な方策をどこまでやってきたのか。昨年事業体が運営を行ってどんなことがあったのか、今までいただいた資料から見えてないところもある。前回の会議でも申し上げたが、市役所前はロケーションとしては非常に厳しい。ある意味で陸の孤島的な部分があり、回遊性の悪いところはあるが、もう少しその回遊性を高める努力をして、物理的なロケーションの解決が無理でもソフトでロケーションを良くしていくようなことを行った上で廃止するかどうかの検討をすることが必要なのではないかと思う。今まで市役所前演舞場で開幕式を行っていたので、この場所もそれなりのステータスのある場所なので、その辺をもう少しここへ人を誘導する努力をした上で、それでもやはりダメであればいずれ市役所前演舞場が廃止されることについて否定するわけではないが、少し時期尚早という感じがする。またやはり縮小均衡はあまり取りたくないという思いがあり、収容人員、栈敷の席数を減らすことによって収支改善していくのも当然一つの方法としてあると思うが、まだ縮小均衡に踏み出していくには時間があってもいいのかと思う。

もう1点、仮にバスの乗車場とした時のその運行ルートについても、例えば国道55号から入ってくる時の右折左折がどれぐらいの渋滞が見込まれるのかを含めて検証をした上で最終的ルートも決めるべきだと思う。さらに観光客を降ろした後の百何十台のバスをどこで待機させるのか。その待機場所によっては進入のルートも変わってくるということも考えられるので、その辺りも詰めてから最終的な結論を出すべきだと思う。

【平山委員】

私はこの市役所前をバスの乗車場にするのは大賛成である。長年に渡って有料演舞場が4カ所というのは非常によくわかるが、やはり今が過渡期だと思う。特にツアー客の立場から見ると阿波おどりに2度と来たくないというような印象を持たれつつある。やはりバスに乗るのに1時間、2時間も待たされるのはたまったものでない。さらにツアー客の年齢層が高齢化しており、長時間歩かせたり、待たせたりというのは非常にまずいという状況の中で、来年も同じように何も改善をしないやり方でやるのは非常に心苦しい。せっかく阿波おどりに来ていただけるのであれば、来て良かったなと思えるように、この市役所前にトイレと物産ブースとしっかり充実させて、徳島のお土産もたくさん買っただけならという思いがある。ただ他の委員の意見にあるように拙速な判断というのはどうかと思うので、慎重に色々なルートも考えながらやっていくべきだと思う。安全であればここで思い切って改革すべきではないかという考えである。

【森住委員】

市役所前演舞場では、かつて県協会の総おどりを3、4年間実施していた時期がある。なので、それをもう一度行っていたら市役所前演舞場はもっと発展していたのだろうと

思う。

私の意見としては、基本的には賛成であるが、資料を見ると市役所前演舞場を止めた時の支出削減額あるいは収入減少額という金額を出している。この発想は非常にマイナス発想であり、先ほど縮小均衡という意見も出たが、次は紺屋町演舞場が無くなるのではないかと連想してしまう。観光バスの乗降場所として使うということ、それで本当に観光客の誘致をできるだけ自信があるのか。バスの乗降場所として利用して多くの観光客を誘致できるのであれば、それこそプラス発想だと思う。

去年まではこの実行委員会に観光関係の代表者がいたが今年はいない。本当はそういった方々から市役所前にバスの乗降場所が出来た場合に観光業者はもっと観光客を呼ぶことができるのかどうかを聞きたい。市役所前演舞場に郷愁はあるがそういったプラス発想で考えた場合は廃止することについては、やむを得ないと考えている。

【松原委員長】

各委員からは、「検証が足りていない」「経済波及効果を検討する必要がある」「時期尚早ではないか」「もっとやるべきことがあるのではないか」というような市役所前演舞場を維持する困難性を十分認識した上で改善や発想の転換を求める意見が出ており、完全に反対意見は出ていないと思う。資料に市役所前演舞場を廃止するとこれだけの経費が浮くと記載されているが、阿波おどりはチケット代金で興行しており、紺屋町や藍場浜をもっと盛り上げて色々な経費を節減するのは経済合理的な発想であり、バスの乗降場所とするのは賛成である。

先ほどの各委員からでた意見に対して、回答できる範囲で事業体からも話を伺いたいと思う。

【事業体】

実行委員会の各委員の意向は十分理解した。これは縮小均衡論ではなくて、基本的には現況を分析したということである。市役所前演舞場の存廃の問題とそれから観光バスを町中に乗降所を置いて、お客様の利便性を図るということは、別々に本当は議論する方がいいと思う。

阿波おどり全体で12万席ぐらいある席の内、ここ4年か5年見たところ、約8万枚から9万枚ぐらいが売れており、毎回約3万5千枚から4万枚近くのチケットが売れ残っている。その中で縮小均衡という言葉を使うのが正しとは思っていない。資源を集中した方がいいと考えており、今年見た限りでは藍場浜演舞場が圧倒的に資源力あり、そこに資源を集中することが重要だと考えた。そういう意味では紺屋町演舞場も非常に町の賑わいという意味では価値のある演舞場あり、南内町演舞場は今まで頑張ってきてきた。そういう中で市役所前演舞場は過去4年間一番売り上げが伸び悩んでおり、客船が来ない時は非常にガラガラの状態だった。そういったことから資源を特化したらいいのではないかという議論が一つある。それとお客様の利便性を図るということは、現状以上に來るかと言われると保証はできない。しかし、今これだけの県外客が来ている中でバスによ

る陸路で運ぶ手段を実行委員会が捨てていいのだろうか。やはりそこはお客様の利便性と陸路で運ぶというバスの利便性を考えて県外客をどう誘致するかは継続的にやっていかなければいけないと考えている。このバスの議論は運営協議会からシャトルバスが混み過ぎているという話があり、評価委員会でも観光バスの市内乗り入れがあった方がいいのではないかという話があり、たまたまこの2つの問題点が合体したのが資料2の内容なだけであり、本当は別々の内容であるという風に私は考えている。

検証についても意見があったが、バス協会に検証の依頼を行ったが一度も検証してただけという話が無かった。

最終的には実行委員会が出す結論に従うが、この2点の問題はやっぱり将来的に向けて解決はしていかなければならない。今年はカレンダーの並びも悪く台風が来たが、来年はカレンダーの並びも良くなる。栈敷の形などに興行としての合理性を持ち込むのは大切なことだと考えている。

【松原委員長】

事業体からの説明を踏まえて質問があれば伺いたい。

【森住委員】

市役所前にバスを停めたら本当に観光客が来てくれるのかは実行委員会ではわからないので、観光業者の生の声を聞きたいという気持ちがある。市役所前演舞場を廃止した時よりも大きな利益があればいいことである。

【事業体】

バスの乗降所はそれに適正な場所が街中でみつかれば、市役所前でなくてもいいと思っている。それとは別に市役所前は今後どうしていくのかを議論しなければならないと考えている。例えば栈敷の高さや客席総数などをもう一度考え直す手段や手法もあるので、廃止するために議論をしているわけではなく、一つの提案の極端な形が廃止という考え方である。また縮小均衡というよりは資源を集約化するという風に考えていただきたい。

【森住委員】

バスの駐車場の話もあったと思うが、市役所前で観光客を降ろした後は吉野川の河川敷に移動してもらうことが前提なのか。

【事業体】

交通の利便性、通行の流れを考えると、この位置だと吉野川よりもマリンターミナルの方がいいかもしれない。

【森住委員】

不謹慎なようで申し訳ないが、市役所付近に空いている土地が1箇所ある。空いている間は利用したりするのもいいのではないか。

【藤川副委員長】

今ある市役所を残しつつで、さらに新しい使い方というのを考えていただきたいと思う。観光物産ブースなどは当然あった方がいいと思うが、おそらく現状ではこれだけで

人は来ないと思うので、今人がいない分色々な事が出来る場所だと思うので新しい使い方を考えていただきたいと思う。

【松原委員長】

他に意見が無ければこの議題についてはこの形で締めたいと思う。意見としては、実際に市役所前をバスの乗降場所として使えるかどうか検証が済んでいない。これは安全安心という事を常に標榜してこの会議を行ってきているので、事故があるというのは絶対に許されないわけである。この点の検証ができるのか、結果どうなのかを報告していただきたいということ。それと市役所前演舞場があることによって経済的波及効果を受けている人に対して、その方たちの利益も無視してもいいのかどうか。その人たちの経済的な効果を補填するためには何か策があるのかどうか。また時期尚早ではないか、なお努力すべきではないか、マイナス思考ではないかという3点が保留要素になった。これらについては次回の実行委員会に説明いただくか、説明する余地がないので現状通りになるのか十分に検討していただき、事前に実行委員会に提案いただきたいと思う。事業計画仕上げなければならないので、仕上げられるように用意していただきたい。

次に公演時間の短縮及び開催時間の前倒しについてという議題を討論したい。

【事務局】

資料3 公演時間の短縮及び開催時間の前倒しについて説明

【松原委員長】

資料の最終ページにあるように各商店街に事業体が同意を求めに行っていたいている。この資料を見れば地元重視だということが一目瞭然であり、誠にご苦労だったと思う。これだけ地元の方から同意を得て、また大型クルーズ船、バスツアーの誘致の点からも大変この点は有益であると認識している。この点も踏まえて意見はどうか。

(意見なし)

意見等ないようなので、この点を事業計画とする。

次に2020阿波おどりチケットについて議論したいと思う。

【事務局】

資料4 2020阿波おどりチケットについて説明

【松原委員長】

チケット販売は運営の根幹となる大変重要なものである。色々なバラエティを含めた上で考えており、色々な特典や手数料を取らないなど、消費者に対して安価で手に入るような方策も考えていただいている。これに関して意見はどうか。

【蔭山委員】

有料演舞場の席の分け方について、これまでは水平方向での区分だったが、一部垂直方向が出てくるようになってきている。スポーツ観戦などに行くと垂直方向の区別の場合には間に通路や柵がある、場合によっては入口そのものが違ったりもする。そういったことが多く意外とわかりやすい。また安全性も確保できると思う。これで仮にS席とA席の間

に区別する時の安全性の確保的はどのように考えられているのか。

【事業体】

安全性の確保は席種が違うことによって変わるものではないと考えている。ただこの列までは3,000円だが、ここはなぜ2,000円なのかという不公平感が縦の列の場合はあることがある。ただ、各演舞場を見た限りでは縦に割るというよりも、上の方で見るのはかなり迫力が落ちるという問題があるので、資料にあるような席割りも一つのアイデアとしてあるのではないかと考えている。既設の物ではなくて、仮設の物なのでどうしても限界性はあるが、お芝居小屋でもコンサートの会場でもそういったことは多少あるので、そこは1件1件の皆様のご質問に対して現場で一つ一つ丁寧に応えていくしかないのと考えている。

【松原委員長】

蔭山委員は安全性について非常に心配されているので、その点には留意していただいてこの席割りのことは考えていただきたいと思う。それでは他に意見がないようなので、それでは2020阿波おどりチケットについてこれで確定とする。

資料4の7ページの有料演舞場の藍場浜特別席の設定なしというのはどういう意味なのか。

【事務局】

前年度まで無かった席になるので、去年は金額の設定が無かったという意味である。

【藤川副委員長】

藍場浜特別席の8000円から15000円という金額の幅どういう意味なのか。

【事業体】

この特別観覧席について事務方から色々なアイデアが出ており、例えば飲食を付けるとか、横にテントを置いてゲストリレーションのような物を作れないかなど、それによってかなり価格差が出る。海外のお客様を迎えるとなると、世界中で一つの流行りで、VIPルームというのがある。この間のラグビーもそうだったのだが、横浜会場の横に一番高チケットを買った方は自由に飲み食いができるテントが作られていた。何のアイデアをここに置くかによって金額がまだ決められていないのが実状である。資源の集中ということも考えて藍場浜演舞場でそんなことが出来ればと考えている。

【松原委員長】

1月に開催予定の実行委員会では何をするのが、はっきりするのか。

【事業体】

もう少し見えると思う。

【松原委員長】

議題も全て尽きたので、以上を持って2019年度第8回阿波おどり実行委員会を終了とする。